

第3回 文理融合シンポジウム

量子ビームで歴史を探る —加速器が紡ぐ文理融合の地平—

文化財をはじめとする人文科学資料研究への活用が期待される「負ミュオンを用いた新たな非破壊研究手法」の実用が、今、日本の研究グループによって精力的に推進されております。高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所では、茨城県東海村にある J-PARC MLF ミュオン施設 (MUSE) で世界最高強度のパルス負ミュオンビームを用いた分析が進められており、また、大阪大学核物理研究センター (RCNP) でも、連続負ミュオンビームによる非破壊分析が活発に実施されています。

これまで放射光や中性子などを用いて、様々な文化財科学の研究が行われておりますが、さらにミュオンも加えて、量子ビームを利用する文化財研究の第一人者が一堂に会して、これまでの考古学研究、並びに関連研究、更に分析技術を紹介し、文理融合研究の可能性を探る本シンポジウムを開催します。全国の大学・博物館・研究所等の人文科学系の研究者と自然科学系の研究者とのネットワークの形成に向けて、新たな文理融合プラットフォームを構築する一助となる事を期待しています。

昨年は7月に第1回シンポジウム (@国立科学博物館)、12月に第2回 (@大阪大学中之島センター) が開催され、第2回シンポジウムのプロシーディングスも完成しました。このたび第3回シンポジウム開催にあたっては新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、オンライン開催とすることに致しました。皆様のご参加をお待ちしております。

世話人代表 三宅康博、下村浩一郎 (KEK 物構研)

2020年

9/25_金 - 26_土

オンライン開催

~~高エネルギー加速器研究機構~~
~~つくばキャンパス 研究本館小林ホール~~

参加費：無料

参加申し込み・
プログラム等
詳細はWEBを
ご覧ください。



<https://www2.kek.jp/imss/event/2020/09/252010.html>

お問い合わせ

高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所
三宅 康博

E-mail : bunri_yugo@ml.post.kek.jp

主催：高エネルギー加速器研究機構 物質構造科学研究所、
共催：人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館、国立科学博物館

協催：日本中間子科学会、J-PARC センター、大阪大学核物理研究センター、
新学術領域「宇宙観測検出器と量子ビームの出会い。新たな応用への架け橋。」
異分野融合 (大阪大学)「新学術・産業応用を目指した次世代ミュオン分析拠点の形成」